

## 編集後記

本号の巻頭言は長井正嗣教授にお願いいたしました。

Hybrid 桁設計考と“Synthesis”、“Integration”力と題して、Hybrid 桁の限界状態設計とその優位性、さらに橋梁の維持管理について貴重なご意見を頂いております。先生にはご多忙のところ玉稿をお寄せ頂き、誠に有り難うございました。誌面を借りまして厚く御礼申し上げます。

先日弊社において、東京港臨海大橋（仮称）の浜出しが行われ、多数の関係者が見学にみえ、各新聞誌、テレビでも取り上げられました。近年の公共事業に対する社会からの厳しい声に、歯がゆい思いがしておりましたが、このような報道により、公共事業の必要性、橋梁メーカーの優れた技術力を一般の皆様にも認知して頂けるものと思います。

この技報においても、宮地の新設橋梁の開発・設計・架設から既設橋梁の補修に至るまで幅広い技術を報告することにより、橋梁に関する技術の向上に貢献できれば幸いです。

最後になりましたが、執筆者を始め多くの関係者の御協力により本号を発刊することが出来たことに感謝致します。

## 宮地技報編集委員会

委 員 長	金 原 慎 一			
副 委 員 長	宮 崎 好 永	百 瀬 敏 彦		
委 員	上 原 正	熊 谷 正 道	小 林 祐 輔	
	米 崎 倫 和*	鈴 木 義 孝	中 村 佐 吉	
	永 谷 秀 樹*	西 垣 登	村 上 貴 紀	
	矢 崎 満	矢ヶ部 彰	山 越 信 也	
	吉 川 薫			

\*印 事務局兼務

## 宮地技報 第24号

発行日 平成21年4月22日

発行所 株式会社宮地鐵工所

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町7番5号

(豊和大伝馬町ビル) TEL 03(3639)2111(代)

印刷所 望月印刷株式会社